

# SDGs

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

## 地域から発信 日本青年会議所の取り組み 24



地元の豆腐も寄付付き商品に選定

マムハートホールディングス(岡山県津山市、松田欣也社長、0868・22・8170)は岡山と鳥取、島根の3県にスーパーマーケットなど50店を運営する。地域貢献活動にも積極的で、2014年に民間非営利団体(NPO)を設立。NPOが活動の中心となり、学校教育やスポーツ活動の支援、市街地活性化などさまざまな事業を展開する。同社は「マルイ」や「わたなべ生鮮館」というスーパーマーケットを主力に酒類販売や100円ショップを運営。20年2月期の売上高は480

### マムハートホールディングス 松田 和也 取締役

## 5テーマで活動「地域を元気に」



地域の農家と契約し、野菜などを販売

億円と岡山県北部を代表する地場企業の一つ。「小売りは地域のインフラ」(松田和也取締役)という認識の下、国連の持続可能な開発目標(SDGs)に取り組んでおり、地域貢献、環境、商品・店舗開発、食育推進、人材育成の五つのテーマを掲げる。地域貢献活動の中心となるのがNPOのマルイ・エンゲージメントキャピタル(岡山県津山市)。松田社長が理事長を兼務し、同社が全面的に支援する。主要事業のうち、15年から始めたのが学校教育支援だ。地場企業の一つ。「寄付付き商品」の売り上げ1点ごと3円を寄付金として拠出するもので、メーカー、卸売り、同社が1円ずつ負担する。このユニークな取り組み。これまでに岡山と鳥取両県の小学校などに合計約4000万円を寄付した。また、17年には岡山県津山市の市街地に食を中心とした交流拠点「Ziba Platform(ジバプラットフォーム)」を開設した。子どもが料理を提供するランチ会など「食」に関連するイベントの開催をはじめ、起業支援など市街地の交流人口拡大につながる幅広い活動を行っている。地方では人口減少や少子高齢化が大きな課題。小売りも社会インフラの一つという位置付けで「地域に還元し、地域を元気にする」(同)が地域貢献活動の方針。地域を盛り上げ、地域とともに持続的な発展につなげたいと考えた。

活用する

具体的

に追いつ

に迫る

に迫る

に迫る

に迫る

に迫る

に迫る

に迫る

に迫る

国連工業開発機関(UNIDO)東京事務所長

## 安永 裕幸



今回は、私が大学で担当している講義「環境問題と経済・産業」の中で感じた、今の若い世代の環境に対する意識についてお話しすることにしたい。15回の講義をするとなると、やはり一つの「体系」というものが必要である。私が担当している講義の受講生は大部分が大学入りの1年生であり、数カ月ほど前までは高校生だったわけである。彼らには、なるべく身近な問題を扱いつつ、環境と経済、環境と社会というものについて包括

## 未来を 変える

的な理解を持って貰いたいと考え、「(海洋)プラスチック問題」「地球温暖化」「産業公害と経済」という三題を柱として、さまざまなトピックを盛り

日本の若い世代の環境への意識は?

込んで、なおかつ英語、オンラインで講義を毎週行っている。プラスチック廃棄物で私

が学生たちにまず見せたのは、何枚かの写真である。この問題でよく話題になる「漁網に絡まるウミガメ」

「洗剤の蓋を住処とするヤドカリ」等も勿論取り上げたのだが、それよりも印象的なものは1955年の米

国雑誌「Life」に登場した「若い夫婦と女の子が『大量消費・大量廃棄』時代の米国を象徴するかのよう

にプラスチック製の食器やトレイを空中に投げ捨てている写真」である。わずか60年余りの我々の先達は、将来プラスチックがこ

のように重大な環境問題を引き起こすとは考えていなかったわけであろう。これには学生たちも大いに衝撃を受けていたようである。

今の学生たちは、環境保全に対する意識は概して高い。私は、7月1日のレジ袋有料化以降も店頭で

「あ、袋下さい」と言っ

てしまう模範的と呼べない大人であるが、彼ら彼女ら

## 海洋プラ、温暖化、極めて関心高く

はマイバックはおろか、マイ箸やマイマグカップまで持参してのキャンパスライフであるらしい。温暖化については、極めて関心が高い。18歳、19歳の若者でも、彼らの子供時代と比較して極端な天候(猛暑日、ゲリラ豪雨等)が増えていることが、科学的な根拠は別としても潜在的な脅威として映っているようである。私は、当然、IPCC(Intergovernmental Panel on Climate Change)による地球科学的な見方や、再生可能エネルギー、省エネ、CCS(二酸化炭素回収・貯留)、水素等の新技術についても説明した上で、グレッタ・トゥンベリさんの国連気候行動サミットでの演説も全文読ませてみた。レポートを課してみたところ、多くの学生が「過激な表現や、時として極端に走って終末論的な見方を示すのは、理解できにくい部分もあるけれど、何より多くの若者の共感と行動を喚起したことで、大きな存在感を示している」という評価を彼女に与えていた。

### 問題意識喚起

### 彼らの感覚

私は講義の中で、「環境と経済の関係」や「技術進歩の役割」については、彼女とその他の有識者の間で理解の乖離がある、という話もしたが、「問題意識の喚起」という意味では、彼女は特に世界の若い世代に大きなインパクトを与えたと思う。私は「若者は怒る権利がある」と考えている



### 森林環境教育

自然

能な

中

学

校

の

森

林

教

育

に

関

心

を

有

識

に

関

心

を

有

識

に

関

心

を

有

識

に

関

心

を

有

識

に

関

心

を

有

識

に

関

心

を

有

識

# SDGs

## 地域から発信

### 日本青年会議所の取り組み

24



地元の豆腐も寄付付き商品に選定

「ムートホルディング」中心となり、学校教育やスポーツ（岡山県津山市、松田依也）活動の支援、市街地活性化などさまざまな事業を展開する。70）は岡山と豊根、島根の3県にスーパーマーケットな「わたなげ生鮮館」というスーパー活動にも積極的で、2014年には民間非営利団体（NPO）を設立。NPOが活動の20年2月期の売上高は480

### 「ムートホルディング」松田和也取締役

## 5テーマで活動 “地域を元気に”



地域の農家と契約し、野菜などを販売

徳戸と岡山県北部を代表する地場企業の一つ。「小売りはムライなどで販売する「寄付地域のインジ」(松田和也)に3円を寄付金として拠出するもので、ミカー、卸売連の持続可能な開発目標(SDGs)に取り組んでおり、地域貢献、環境、商品・店舗開発、食育推進、人材育成の五つのテーマを掲げる。小学校などに合計約400万円を寄付した。また17年には岡山県津山市の市街地に食を中心とした交流拠点「Ziba Pia」(長を兼務し、同社が全面的に支援する。主要事業のうち、15年から「食」に関連するイベントの開催をはじめ、起業支援など市街地の交流人口拡大につながる幅広い活動を行っている。地方では人口減少や少子高齢化が大きな課題。小売りも社会インフラの2つという位置付けで地域に還元し、地域を元気にする」(同)が地域貢献活動の方針。地域を盛り上げ、地域とともに持続的な発展につなげたいと考えた。

始めたのが学校教育支援だ。地場企業の「小売りはムライなどで販売する「寄付地域のインジ」(松田和也)に3円を寄付金として拠出するもので、ミカー、卸売連の持続可能な開発目標(SDGs)に取り組んでおり、地域貢献、環境、商品・店舗開発、食育推進、人材育成の五つのテーマを掲げる。小学校などに合計約400万円を寄付した。また17年には岡山県津山市の市街地に食を中心とした交流拠点「Ziba Pia」(長を兼務し、同社が全面的に支援する。主要事業のうち、15年から「食」に関連するイベントの開催をはじめ、起業支援など市街地の交流人口拡大につながる幅広い活動を行っている。地方では人口減少や少子高齢化が大きな課題。小売りも社会インフラの2つという位置付けで地域に還元し、地域を元気にする」(同)が地域貢献活動の方針。地域を盛り上げ、地域とともに持続的な発展につなげたいと考えた。

### 森林環境教育

林野庁は、体験学習を通じて自然への理解や関心を深める「森林環境教育」を推進するため、今月下旬に「有識者委員会を立ち上げる方向で調整に入った。新型コロナウイルス感染症対策に必要な「密」回避が可能な自然の中で伸び伸び育てる保育や、小中学校での自然観察など、知恵を凝らした森林教育の積極導入を教育関係者に呼び掛けた。年度末をめどに新たな教育プログラムを策定する。有識者委員会では、森林教育の先進事例に関する文献調査や関係団体へのヒアリングなどを行い、効果や課題を検証。具体的な教育プログラムの提案を目指す。学校側が取り組みやすいよう、森林を保育する自治体などのマッチング体制の整備や、人材育成の手法なども検討する。多くの小中学校では林間学校を実施しているが、今年はコロナの影響で軒並み中止に追い込まれている。一方で、2020年度から順次導入される新たな学習指導要領には、自然体験などの体験活動の充実が打ち出された。有識者委員会は、感染拡大につながる形での森林教育を全国に普及させる方策も議論する見通しだ。

### 情報BOX

#### 自然保育・体験活動を推進

## 問題意識喚起 彼らの感覚を大切に

私は講義の中で、「環境と経済の関係」や「技術進歩の役割」については、彼らが「将来的な理由のため、将来世代のために現世代が再生不可能資源(地球環境)をどうまで利用(消費)するかが許されるか?」という「有限資源の共有」について、彼らは特に世界の若い世代に大きなインパクトを与えた問題である以上、この若い世代とどう向き合っていくべきか、という「価値観の共有」について、私には「若者の共感と行動を喚起」する必要がある。彼らは「若者は怒る人達の感覚は大切にしたい」と考えている。権利がある」と考えている。を彼女に与えていた。

## 海洋プラ、温暖化



海洋プラ



国

「大量消費・大量廃棄」時代の米国を象徴するかのようには、将来プラスチックがどのように重大な環境問題を引き起こすとは考えていなかったわけであらう。これには学生たちが大いに衝撃を受けていたようである。今の学生たちは、環境保全に對する意識は概して高い。私は、7月1日のレジ袋有料化以降も店頭で「あ、袋下さい」等と言っている写真である。わずかに60年前の我々の先達やトイ空気に投げ捨てられてプラスチック製の食器やプラスチック製の食品などについて包括的に、環境と経済、環境と社会というものが、彼ら彼女ら大人であるが、彼ら彼女ら

Echo-Online 総販売元  
ISO 14001 認証取得  
益岡産業株式会社  
代表取締役 益岡 義啓  
本社 〒5550-0013 大阪府西区新町1-18-13 ☎06(6578)1341(代)  
福岡営業所 ☎092(4)316001  
http://www.e-masusoka.co.jp

オータメイトハイテクノロジーシステムズホールディングス株式会社  
ISO 9001・14001 認証取得  
代表取締役社長 家 鋪 渡  
〒5596-0013 大阪府岸和田市臨海町2-0番地  
TEL.072(438)0051 FAX.072(438)9026

ISO9001認証取得 JQA-QM4130  
朝日鑄工株式会社  
取締役社長 平山 理  
〒593-8324 堺市西区鳳東町6丁目616 ☎072(2)2711561(代)  
http://www.asahichu.co.jp FAX.072(2)711810

大型機械加工工場  
大型MCマシニングセンター・NC大型旋盤・多軸  
株式会社 光立 鑑 立 入  
代表取締役社長 立 入 鑑  
本社 〒590-0908 堺市堺区山本町1丁目7番6  
工場 〒590-0983 堺市堺区通面小路4丁目5-1  
E-mail: techinfo@kou-tsuji.com

アールミニウム粉  
MIMALCO  
取締役社長 柳 生 宗  
本社 〒590-0061 堺市堺区御橋町1丁目1-1  
☎072(2)2412101 FAX.072(2)2412105

岸和田ステンレス株式会社  
代表取締役社長 家 鋪 渡  
〒5596-0013 大阪府岸和田市臨海町2-0番地  
TEL.072(438)0051 FAX.072(438)9026

ISO9001・14001 認証取得  
ミナルコ株式会社  
取締役社長 柳 生 宗  
本社 〒590-0061 堺市堺区御橋町1丁目1-1  
☎072(2)2412101 FAX.072(2)2412105

東大院工学系研究 企画調整部  
86年(昭61) 開発機構 (NEDO) 企画調整部  
燃料部部長 燃料部部長 燃料部部長  
17年から現職。06年博  
士課程修了。17年から現職。

# SDGs

## 地域から発信

日本青年会議所の取り組み

24



地元の豆腐も寄付付き商品に選定

### マムハートホールディングス 松田 和也 取締役

マムハートホールディングス(岡山県津山市、松田欣也社長、0868・22・8170)は岡山と鳥取、島根の3県にスーパーマーケットなど50店を運営する。地域貢献活動にも積極的で、2014年に民間非営利団体(NPO)を設立。NPOが活動の

中心となり、学校教育やスポーツ活動の支援、市街地活性化などさまざまな事業を展開する。

同社は「マルイ」や「わたなべ生鮮館」というスーパーマーケットを主力に酒類販売や100円ショップを運営。20年2月期の売上高は480

## 5テーマで活動「地域を元気に」



地域の農家と契約し、野菜などを販売

億円と岡山県北部を代表する地場企業の一つ。「小売りは地域のインフラ」(松田和也取締役)という認識の下、国連の持続可能な開発目標(SDGs)に取り組んでおり、地域貢献、環境、商品・店舗開発、食育推進、人材育成の五つのテーマを掲げる。

地域貢献活動の中心となるのがNPOのマルイ・エンゲージメントキャピタル(岡山県津山市)。松田社長が理事長を兼務し、同社が全面的に支援する。

主要事業のうち、15年から始めたのが学校教育支援だ。マルイなどで販売する「寄付付き商品」の売り上げ1点ごとに3円を寄付金として拠出するもので、メーカー、卸売り、同社が1円ずつ負担するというユニークな取り組み。これまでに岡山と鳥取両県の小学校などに合計約4000万円を寄付した。

また、17年には岡山県津山市の市街地に食を中心とした交流拠点「Ziba Platform(ジバ プラットフォーム)」を開設した。子どもが料理を提供するランチ会など「食」に関連するイベントの開催をはじめ、起業支援など市街地の交流人口拡大につながる幅広い活動を行っている。

地方では人口減少や少子高齢化が大きな課題。小売りも社会インフラの一つという位置付けで「地域に還元し、地域を元気にする」(同)が地域貢献活動の方針。地域を盛り上げ、地域とともに持続的な発展につなげたい考えだ。

てしま... 稼働... と呼べない... 大人であるが、彼ら彼女ら